

ビデオ#1: 冒頭の挨拶 (OPENING REMARKS)

ブルックス博士による紹介:

皆さん、おはようございます。沖縄県主催の会議にお越し頂きましてありがとうございます。本日は、来賓ならびに安全保障の専門家をお招きして米日同盟の発展における沖縄の役割について議論して頂きます。通訳の装置を使用される方、英語は 2 番、日本語は 10 番です。表示に間違いがあるようです。

この会議は長年の懸案であったと私は思いますし、本日の非常に多くの方々の参加を見れば、また、この会議がウェブストリームによって世界中の視聴者に向けて生中継されていることから、この会議がワシントンを取り巻く情勢にとって極めて重要であることが分かります。

私の名前は、ウィリアム・ブルックスと申します。SAIS(高等国際問題研究大学院)で教鞭をとっております。本日は会議の司会を務めさせて頂きます。また、本日は、この会議の開催のために、遠路沖縄から仲井眞弘多沖縄県知事にお越し頂いております。

知事のご見解を頂く前に、知事のご紹介をさせて頂くにあたって一言申し添えておきますと、おそらく多くの方はお気づきではないと思いますが、今年は米国から日本に沖縄が返還されて 40 年目にあたります。したがってある意味では、この会議は、沖縄が多くの問題に対処しながらも経済の自立を確立することのできた長い期間を記念する行事とも言えます。美しい島々からなる沖縄県の知事は、理想的には、島の観光やハイテク分野への投資、それから今まさに健全な成長を遂げようとしている経済のプロモーションのためにワシントンにお越しになるところでしょうが、現実にはそうではありません。仲井眞知事および沖縄県の住民の皆さんが背負っている現実、申し上げるまでもなく人々の望む理想とは大きくかけ離れたものです。まず、中国および緊張感や敵対感さえますます高まる東シナ海に面した沖縄の戦略地政学的な位置といった現実があります。また、日本国内の米軍基地の 74 パーセントが沖縄に駐留しているという、誰もが過剰であると認める安全保障上の負担の現実もあります。さらには、基地および施設を返還して沖縄県の負担を軽減するという政府間の合意があるにも拘わらず、1996 年に返還の約束がなされた主要基地、海兵隊普天間航空基地は現在も存続し、新しい航空機への更新さえ行われています。さらに悪いことに、先週、当基地の米国職員のメンバーがまた新たな事件、新たな恐ろしい犯罪を犯したとの知らせが入っています。このような雰囲気の中で、今日私たちが論じる予定の沖縄の戦略地政学的な位置および主要基地用地としての重要性に関する通常の会話を進めたところで、特段沖縄県民の懸念を緩和できるわけではありません。ではこの会議にあって重要なことは何かと申しますと、まず沖縄の懸念を表明し、そのうえで、本日来賓のパネリストによって戦略的現実ならびにそれに対して何をなすべきかに関して、ある種のブレインストーミングを行うことですが、私が思うには、これらの点は、沖縄問題に関する関心を喚起するだけでなく、願わくば 16 年前に約束された沖縄の基地問題の大部分を解決するために、全ての関係者、中でも沖縄に存在する 2 つの政府間の協力を再度活性化することとなるでしょう。ある意味では、全ての関係者にとって、殊に沖縄の人々にとって満足いく状況となることを期待しています。

本日の来賓でありこの会議の主催者であります仲井眞弘多知事は、2006 年から沖縄県知事を務めておられ、2010 年にその第 2 期に再選されました。仲井眞知事は、1961 年に東京大学をご卒業後、技官として通商産業省に入省、その後通産省の沖縄総合事務局、機械情報局、さらには工業技術院において高官を務められました。その後、知事は第 2 のキャリアとして沖縄電力株式会社の役員を務められ、1995 年に

社長に、そして 2003 年に会長に就任されました。現在は沖縄県知事として、基地問題への取り組みに多大な時間と労力を費やしてこられた一方、同時に沖縄の経済発展にも多大な努力をされてきました。そして私がある読み物で得た知識によりますと、そのご努力が実り始めているようです。仲井眞知事、ようこそワシントンにお越しくださいました。私たちは、知事が沖縄県民から託されたメッセージを謹んで拝聴いたします。

では、知事、よろしくお願い致します。

仲井眞知事: ご紹介いただきました沖縄県知事の仲井眞でございます。本日は朝早くからお集まりいただき、心から感謝し、歓迎を申し上げます。マイク・モチヅキ先生の下で、我々は沖縄でいろいろな研究会や勉強会を開催しており、実は、こういう会議は今回で 3 回目になります。我々はいろいろな意見交換をしながら、沖縄に関する国際的な課題や問題を解決するための勉強会をやってきました。今回もその流れでございます。

沖縄は 40 年前まで米国軍政府の施政権下にありましたが、40 年前に日本に復帰し、おかげをもちまして、現在では、観光や情報通信産業を中心に食べています。そういう中で、我々はアメリカと文化交流、学術交流、そして留学生交流などでお世話になっています。また、先日、沖縄科学技術大学院大学 (Okinawa Institute of Science and Technology Graduate University) が開学しました。同大学にドーファン先生をはじめ、MIT、スタンフォードから大勢の研究者をお招きし、科学技術の最先端の研究が 10 年前から沖縄で始まっており、アメリカとはいろいろな形の文化、経済、科学技術交流が行われ、沖縄経済も今何とか自立できる方向で進んでいます。

一方で、沖縄の米軍基地を中心とした安全保障について、沖縄県民には大きな不満があり、これは解決を要する課題です。基本的に、米軍専用施設と言われている米軍施設が、日本の中では沖縄に非常に集中しています。この集中の度合いを和らげてもらいたいと我々は日本政府に要望しています。そういう中で、ゆっくりと改善はされていますが、改善はまだまだで、特に米軍海兵隊の普天間基地は街の真ん中にあるので、危険で、経済発展にも少し支障をきたしているのです。そういうことで、基地を移そうという話が 15~16 年前からあり、方向性は決まったのですが、これがなかなか実現していません。この後、先生方のパネルディスカッションがありますが、私も日本政府やアメリカ政府にいろいろな形で改善や解決をお願いしている途中です。本日はパネルディスカッションを通じて先生方のご意見を伺いながら、県知事として、できるだけ早い解決に向けて取り組んで参りたいと思います。ご清聴よろしくお願い致します。ありがとうございました。